

株主のみなさまへ

第189期 期末報告書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)



鳥海山と朝日連峰遠望(新潟県)

ごあいさつ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

2015年4月に日本ペイントホールディングスの代表取締役社長に就任しましたことを改めてご報告申し上げます。新たな体制のもと、株主のみなさまに一層の信頼をいただける企業グループを目指し企業価値・株主価値の向上に努めてまいります。

ここに当期（2014年度、第189期）の業績の概況と当社グループの今後の歩みについてご報告・ご説明を申し上げます。

当社グループの当期の業績につきましては、連結売上高は2,605億90百万円（前期比0.0%増）、連結営業利益は原材料コストが上昇するなか、継続的に原価低減活動を行った結果、337億51百万円（前期比1.1%増）となり、連結経常利益は492億71百万円（前期比5.2%増）となりました。また、連結当期純利益については、アジア地域の合併会社の持分取得（子会社化）を実施したことに伴い、特別利益として段階取得に係る差益1,488億円を計上したことから、1,814億77百万円（前期比464.4%増）となりました。なお、売上高・営業利益・経常利益・当期純利益ともに過去最高を更新し、営業利益については5期連続、経常利益・当期純利益については3期連続の更新となりました。また、期末配当は1株当たり12円とし、年間配当金は22円とさせていただきます。

当社グループは、2008年に発生した世界的金融危機の影響により大幅に業績が悪化したことを受けて、2009年度から「サバイバル・チャレンジ（以下SC）ステージⅠ」に取り組み、利益体質への転換を目指しました。また、2012年度からは当期を最終年度とした「SCステージⅡ」を展開し、確固たる利益体質の定着を図りました。この6年間の取り組みにより、特に国内事業の収益性が大幅に向上し、連結営業利益は30億円（2008年度実績）から337億円（2014年度実績）となるなど、一定の成果を見ることができました。

また、2014年10月には持株会社体制に移行、2014年12月にはアジア地域の合併事業の持分を取得（子会社化）し、成長企業へと転換するための体制を整備いたしました。本年度は、2014年12月にアジア地域の合併会社の持分取得（子会社化）を完了したことから、連結化に伴う影響を連結業績見通しに反映しており、その結果、売上高は5,000億円を超える規模に、海外売上高比率は6割

程度まで拡大する見込みです。

当社グループは、「共存共栄を基本理念とし、社業を通じて社会公共の福祉に貢献する」という経営理念がございますが、本年度から始まる新中期経営計画（SCステージⅢ）の策定にあたり、海外への飛躍、海外提携先との関係強化、チャレンジする姿勢を重視し、新経営ビジョンを策定いたしました。

新経営ビジョン

- ・我々は、塗料をコアに、優れたスペシャリティケミカル製品とサービスを提供し、お客様に満足と感動を届けます
- ・我々は、世界各地の文化と人々の価値観を尊重し、グローバルに成長します
- ・我々は、果敢にチャレンジする人材が集まり、いきいきと働ける企業風土を追求します

また、当社グループは、「コーティングス及びその関連事業がそれぞれのグローバル地域でリーディングポジション、すなわち各事業領域において売上高トップ3以内を獲得できている」グローバルペイントメジャーとなることを将来のゴールとして設定しました。このゴールを達成するため、そこから逆算した2017年度のあるべき姿を新中期経営計画の必達目標と定め、グローバルペイントメジャーへの足掛かりとなる基盤構築に取り組みます。特に、最重要市場・中国で“Dominant”となる基盤作りを目指します。

ウットラムグループとの戦略的提携の深化によるアジア合併事業のシナジーの加速や、国内事業の再編による顧客本位の企業風土構築を追及します。また、自らが手を上げ挑戦する自主性の文化の創造や、日本的な視点から脱却し、異文化を許容できる真の意味での「グローバル人材」を多く育成するなど成長の芽となる「人」と「風土」を変革し、当社グループ企業の従業員全体が「グローバルペイントメジャーになる」という将来の目標に向かい一丸となって取り組みます。

以上のように企業価値・株主価値を高める活動を実践することで、株主のみなさまのご期待に応えてまいります。みなさまにおかれましては、今後とも長きにわたり一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

田谷哲志

本年4月に、国内事業を新たに自動車用・工業用・汎用の各塗料事業ならびに表面処理剤事業を営む各事業会社に再編し、当社の傘下に置きました。これにより、当社は、これらの事業会社をはじめとする日本・アジア・北米・欧州のグループ経営に特化し、グループ全体で最適な意思決定を行う一方、新たに発足させた各事業会社は、事業や地域のビジネスモデルに応じて迅速な事業運営・意思決定をしております。

日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社

(自動車用塗料事業新会社)

新興国を中心に、これからも大きな成長が期待できる自動車産業。当社が担う自動車用塗料事業は、益々拡大する海外市場において事業展開を加速させています。また、自動車メーカーの「魅力あるクルマづくり」に貢献する付加価値の高い塗料開発を進めており、例えば、ユーザーの自動車意匠へのこだわりが強まる中、塗料のスペシャリストとしてさまざまな嗜好にあったカラーデザインや質感表現を自動車メーカーに提案しています。自動車の商品力向上の一翼を担い、常にユーザーの高い満足度を得られる高品質の自動車用塗料の開発、提供を目指しています。

本社所在地：〒573-1153 大阪府枚方市招堤大谷2-14-1
代表取締役社長：山田 光夫



日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社

(工業用塗料事業新会社)

建設機械、農機、オフィス什器、家電製品やプレコート金属板等、非常に広範な工業用分野に塗料をお届けしています。お客様のご要望や市場ニーズも多岐にわたるため、時には原材料そのものを自社で作作り出し、ニーズに最適化させた塗料を開発しています。また、溶剤を必要とせず、環境にやさしい「粉体塗料」の製品展開を拡げ、国内の業界No.1のシェアを確保しています。太陽光・風力発電に向けた塗料の開発や、蓄電池に求められる絶縁材料など、エネルギーの未来を支える機能性塗料にも注力しております。

本社所在地：〒140-8675 東京都品川区南品川4-1-15
代表取締役社長：三輪 宏



新4事業会社紹介 組織再編 日本ペイントホールディングスグループの

日本ペイント株式会社

(汎用塗料事業新会社)

戸建て住宅、ビル、橋梁などの施工現場で幅広く使用されている汎用塗料で付加価値の高い製品開発、調色・流通の効率化を進めています。建築用塗料分野では様々な環境配慮型製品を展開すると共に「塗りやすさ」を追求した製品も開発し、施工現場の効率化を実現しました。また、老朽化したインフラの保全が社会的問題となる中、構造物用防食塗料の分野でも環境配慮と防食性を向上させた製品を展開しています。自動車補修用塗料では新車塗装で培った最先端技術を補修分野へ応用すると共に、補修に適した独自技術を生み出し環境負荷の低減や、補修作業の効率化につながる塗料を提供しています。

本社所在地：〒140-8677 東京都品川区南品川4-7-16
代表取締役社長：相田 新吾



日本ペイント・サーフケミカルズ株式会社

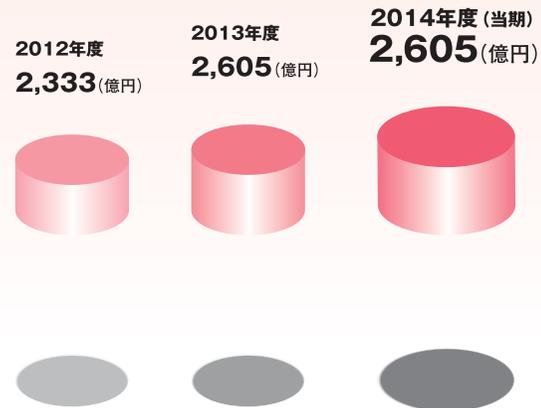
(サーフ事業新会社)

素材表面に用途に応じた機能を付与する薄膜を形成することにより高い付加価値を生み出す、それが当社の「ニッチだけどユニーク」な表面処理テクノロジーです。塗装の前工程として被塗物の防錆性や塗膜密着性、耐久性などの性能を高める処理技術を提供するとともに、幅広い産業分野の素材表面に斬新な機能を付与する表面改質を施し、新たな価値を創造するのが私たちの使命です。これからも工業製品が素材に求める機能を追求し、環境に配慮した最新の表面改質技術をグローバルに提供し続けることで事業拡大を加速していきます。

本社所在地：〒140-8675 東京都品川区南品川4-1-15
代表取締役社長：白幡 清一郎



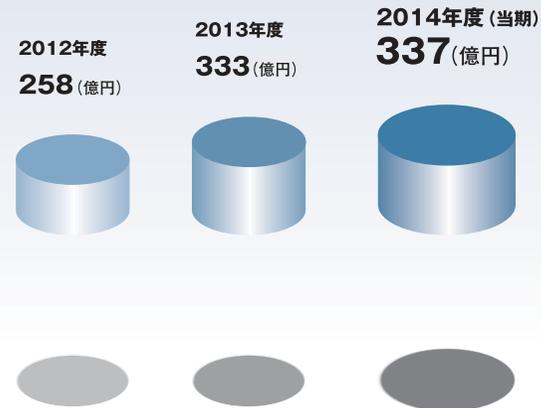
連結売上高



連結営業利益

原材料コストが上昇するなかで継続的に原価低減活動を行った結果、前期比1.1%増の337億51百万円となりました。

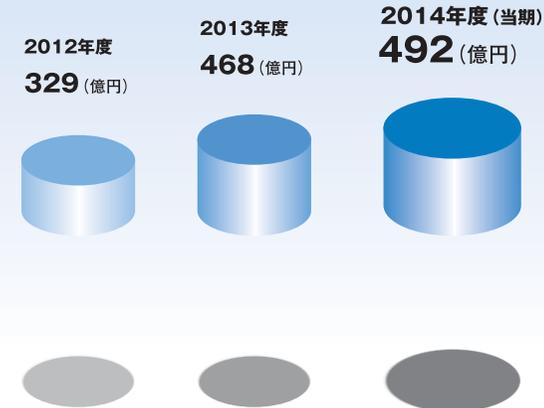
前期比
1.1%増



連結経常利益

中国などアジア地域の持分法投資利益が増加したことなどから、前期比5.2%増の492億71百万円となりました。

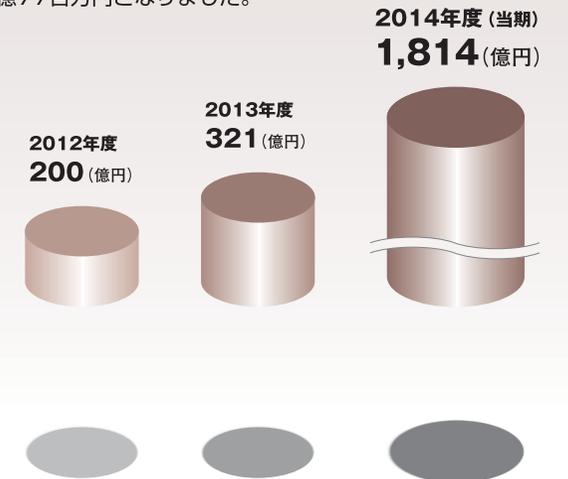
前期比
5.2%増



連結当期純利益

アジア地域の合併会社の持分取得(子会社化)を実施したことに伴い、特別利益として段階取得に係る差益1,488億円を計上したことから、前期比464.4%増の1,814億77百万円となりました。

前期比
464.4%増



連結

区分	2012年度	2013年度	2014年度 (当期)
売上高 (億円)	2,333	2,605	2,605
営業利益 (億円)	258	333	337
経常利益 (億円)	329	468	492
当期純利益 (億円)	200	321	1,814
1株当たり当期純利益	75円62銭	122円47銭	650円4銭
総資産 (億円)	2,879	3,240	8,107
純資産 (億円)	1,720	2,077	5,899
1株当たり純資産	609円20銭	746円25銭	1,496円16銭

(注) 1株当たり当期純利益は、当期純利益を期中平均株式数(自己株式数を除く)で除して算出しております。

年間配当金は過去最高の年22円に

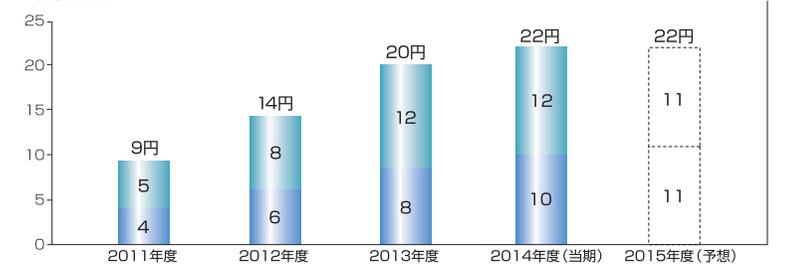
アジア地域の合併会社の持分取得(子会社化)を実施したことに伴い、特別利益として段階取得に係る差益(既存持分の再評価益)1,488億円を計上しました。

この特殊要因を除いた当期純利益に基づき、期末配当を1株当たり12円とし、年間配当金を22円とさせていただきます。

次期の年間配当金につきましては、1株当たり22円とさせていただきます。

配当金の推移

年間配当金



当社グループは世界各国に拠点を置き、地域別に「日本」「アジア」「北米」「その他」地域に分けており、各地域別に当期の概況をご説明いたします。

当期の概況

(注) 営業利益には、セグメント間取引消去その他の調整額を含めておりません。

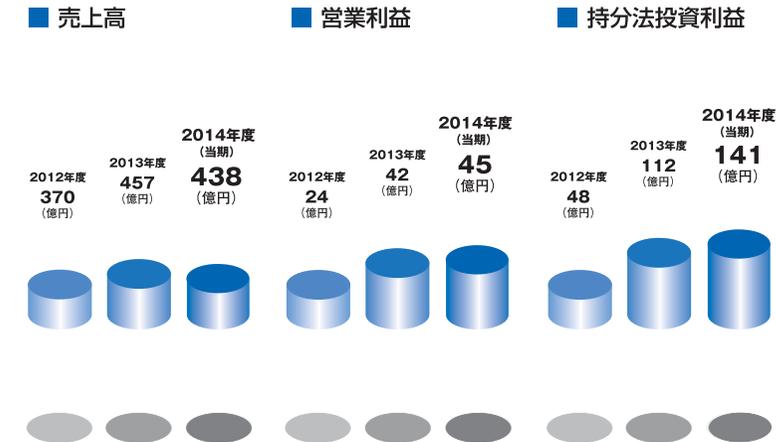
日本



当地域では、自動車生産台数が減少するなか、自動車用塗料の売上高は前期並みとなりました。工業用塗料については、建設機械向け塗料などが堅調に推移する一方、住宅資材向け塗料の出荷が減少したことなどから、売上高は前期を下回りました。汎用塗料も市況が低調に推移したことなどから、売上高は前期を下回りました。

これらにより、当地域セグメントの売上高は1,872億4百万円(前期比0.1%減)となりました。また、2014年10月1日から持株会社に移行したことに伴い、海外グループ会社からの受取配当金(当期計上額78億24百万円)をセグメント売上高および利益に計上していることから、営業利益は342億32百万円(前期比26.7%増)となりました。なお、この受取配当金は内部取引として「セグメント間取引消去その他の調整額」としてその全額が消去されます。

アジア



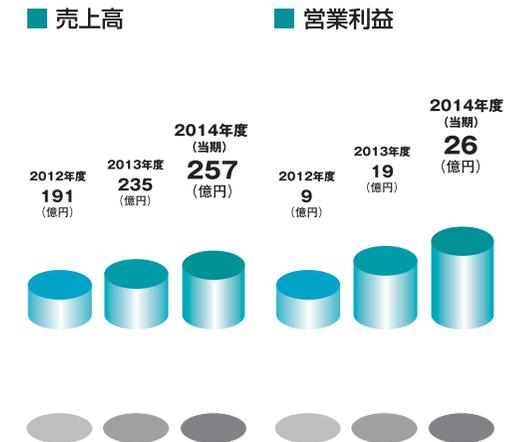
当地域では、連結子会社については、タイは政情不安による景気減速の影響を受け、売上高は大幅に減少しました。一方、中国では日系自動車メーカーの販売台数増加に伴い、自動車向けプラスチック用塗料の売上高が増加しました。

これらにより、当地域セグメントの売上高は438億70百万円(前期比4.0%減)、営業利益は45億30百万円(前期比6.4%増)となりました。

持分法投資利益につきましては、2014年12月に連結子会社化したアジア地域の合併会社において、その中核である中国の住宅内装用塗料の売上高が好調に推移したことに加え、継続して原材料を中心としたコスト削減に取り組んでいることから、収益性がさらに向上しました。

これらにより、当地域セグメントの持分法投資利益は141億80百万円(前期比25.8%増)となりました。

北米



当地域で展開している自動車塗料事業は、期初(2014年1・2月)の寒波や前期末に一部不採算事業を売却した影響もあり、現地通貨ベースの売上高は減少したものの、為替の影響により円ベースでは増加しました。

この結果、当地域セグメントの売上高は257億94百万円(前期比9.5%増)に、営業利益は26億85百万円(前期比35.9%増)となりました。

財務諸表（連結）

■ 連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円 単位未満切捨表示)

科目	前期	当期	科目	前期	当期
	平成26年3月31日現在	平成27年3月31日現在		平成26年3月31日現在	平成27年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	172,171	341,736	流動負債	91,052	166,977
固定資産	151,857	468,991	固定負債	25,259	53,826
有形固定資産	61,801	100,930	負債合計	116,312	220,804
無形固定資産	14,684	318,073	(純資産の部)		
投資その他の資産	75,371	49,987	純資産合計	207,715	589,923
資産合計	324,028	810,727	負債純資産合計	324,028	810,727

Point 1

Point 1

Point 2

Point 2

Point 3

Point 3

《資産合計》

総資産は前期末に比べ4,867.0億円増加して8,107億27百万円となりました。その主な要因は、従来持分法を適用しておりました当社とWUTHELAM HOLDINGS LTD.との間の合併会社8社およびこれらの子会社38社を連結の範囲に含めたことや、その結果、のれんを計上したことなどによるものです。

《負債合計》

負債は前期末に比べ1,044.9億円増加して2,208億4百万円となりました。その主な要因は、アジア地域の合併会社の連結化によるものです。

《純資産合計》

純資産は、前期末に比べ3,822.1億円増加して5,899億23百万円となりました。その主な要因は、平成26年12月5日付けの第三者割り当て増資により資本金および資本剰余金がそれぞれ511.5億円増加したことに加え、当期純利益の計上による利益剰余金の増加およびアジア地域の合併会社の連結化による少数株主持分の増加によるものです。

■ 連結損益計算書の要旨

(単位:百万円 単位未満切捨表示)

科目	前期	当期
	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高	260,578	260,590
売上原価	166,938	168,039
販売費及び一般管理費	60,252	58,798
営業利益	33,387	33,751
営業外収益	15,257	18,273
営業外費用	1,811	2,754
経常利益	46,832	49,271
特別利益	160	148,885
特別損失	968	286
税金等調整前当期純利益	46,024	197,869
法人税、住民税及び事業税	12,657	12,165
法人税等調整額	△1,149	1,814
少数株主損益調整前当期純利益	34,516	183,889
少数株主利益	2,359	2,412
当期純利益	32,156	181,477

Point 4

Point 4

《損益計算書》

連結売上高は2,605億90百万円(前期比0.0%増)、連結営業利益は原材料コストが上昇するなか、継続的に原価低減活動を行った結果、337億51百万円(前期比1.1%増)となりました。また、連結当期純利益については、アジア地域の合併会社の持分取得(子会社化)を実施した事に伴い、特別利益として段階取得に係る差益1,488億円を計上したことから、1,814億77百万円(前期比464.4%増)となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円 単位未満切捨表示)

科目	前期	当期
	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,920	34,419
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,173	△86,966
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,034	85,298
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,281	1,818
現金及び現金同等物の増減額	993	34,569
現金及び現金同等物の期首残高	42,793	43,787
現金及び現金同等物の期末残高	43,787	78,702

Point 5

Point 5

《キャッシュ・フロー計算書》

当期は営業活動により344億19百万円の収入、投資活動により869億66百万円の支出(連結範囲の変更を伴う子会社株式取得など)、財務活動により852億98百万円の収入(第三者割当増資に伴う新株式の発行など)があり、結果として現金及び現金同等物は787億2百万円となり、前期末に比べ349.2億円増加いたしました。

■ 連結株主資本等変動計算書

当連結会計期間(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	27,712	27,187	140,270	△6,389	188,782
会計方針の変更による累積的影響額	—	—	△1,268	—	△1,268
会計方針の変更を反映した当期首残高	27,712	27,187	139,002	△6,389	187,513
当期変動額					
新株の発行	51,150	51,150	—	—	102,300
剰余金の配当	—	—	△5,735	—	△5,735
当期純利益	—	—	181,477	—	181,477
自己株式の取得	—	—	—	△44	△44
自己株式の処分	—	0	—	1	2
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	51,150	51,150	175,741	△42	277,999
当期末残高	78,862	78,338	314,743	△6,432	465,513

(単位:百万円 単位未満切捨表示)

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	6,827	△1	2,618	△3,661	5,783	13,149	207,715
会計方針の変更による累積的影響額	—	—	—	—	—	—	△1,268
会計方針の変更を反映した当期首残高	6,827	△1	2,618	△3,661	5,783	13,149	206,446
当期変動額							
新株の発行	—	—	—	—	—	—	102,300
剰余金の配当	—	—	—	—	—	—	△5,735
当期純利益	—	—	—	—	—	—	181,477
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	△44
自己株式の処分	—	—	—	—	—	—	2
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	5,391	15	1,688	1,436	8,532	96,945	105,477
当期変動額合計	5,391	15	1,688	1,436	8,532	96,945	383,476
当期末残高	12,218	13	4,307	△2,224	14,316	110,094	589,923

当社保有「日本の塗料工業の発祥を示す資料」が化学遺産に認定

当社が保有する「日本の塗料工業の発祥を示す資料」が、公益社団法人日本化学会より化学遺産として認定され、認定証が授与されました。

洋式塗料の国産化は、1881(明治14)年に当社の前身である光明社が設立されたことに始まります。茂木春太・重次郎兄弟は1878年に高純度亜鉛華の製法を確立し、翌1879年には洋式塗料である堅練り塗料の製造に成功しました。さらに、塗装現場で希釈する必要のない溶解塗料「塗具(ぬりぐ)」を開発し広く塗料が普及する始まりとなりました。当社には、光明社で製造された亜鉛華をはじめ、当時作られた塗板見本額など、日本における塗料工業の発祥とその変遷を示す貴重な資料類が保

存されており、これらが化学遺産として価値あるものとして認められました。



1881(明治14)年に塗られた塗板見本額



授与された化学遺産認定証



光明社看板

大阪府の大規模災害時に役立つヘリサイン整備に当社グループが引き続き協力

大規模災害については国や自治体、企業などが様々な対策を検討しておりますが、当社の本社所在地である大阪府でも南海トラフ巨大地震時の災害を想定した対策を検討・実施しております。

当社は大阪府と協力し、2007年、2013年と二度にわたり大規模災害時に特に重要となる「ヘリサイン整備事業」をすすめてまいりました。大規模災害発生時の救援物資の輸送や傷病者の搬送のために府外から参集する救援ヘリコプターが、飛行区域を一目で識別できるよう建物の屋上に表示される施設名称が「ヘリサイン」です。

当社は、大阪府の地域貢献企業制度(企業の社会貢献・地域貢献活動と大阪府の施策をマッチングするシステム)を通じて、大阪市立豊崎中学校や大阪府立美原高校など大阪府内10ヶ所の施設に対して当社関連会社である日本

ライナー株式会社が塗料提供および塗装工事を行い、ヘリサインを整備いたしました。



大阪府立美原高等学校(堺市美原区)



大阪市立豊崎中学校(大阪市北区)

ベトナム北部に工場を新設 ~ 自動車用・二輪車用市場の拡大に対応 ~

昨年10月にベトナムにおいて3拠点目となる新会社 Nippon Paint Vinh Phuc Co., Ltd. (日本ペイントビンフック、以下NPVP) を設立し、新工場を稼働させています。

当社のベトナムにおける事業は、1994年に南部ドンナイ省にNippon Paint Vietnamを設立、建築用、家庭用、構造物用などの塗料供給を開始しました。2005年にはハノイ北部に自動車用、二輪車用、工業用、自動車/二輪車補修用塗料などの生産工場(Nippon Paint Vietnam (Hanoi) Co., Ltd.、以下NPVH) を立ち上げ、現在に至ります。

今回設立しましたNPVPの新工場は、同国で需要の拡大が続く自動車用、二輪車用塗料を中心に生産を開始し、将来的には工業用塗料、重防食用塗料などの生産も予定しています。また、新工場の稼働により、現在の2工場体制から3工場体制

とし、特に北部地区、および工業用途へのリスク分散を図り、より安定的な供給を実現します。



Nippon Paint Vinh Phuc Co., Ltd.

大阪府の全ての公立小学校に防犯意識の向上を目的とした「5つのやくそく(安全標語)」を掲載したパネルポスターを寄付

当社は社会貢献活動の一環として、子どもの防犯意識向上のための「5つのやくそく」を掲載したパネルポスターを製作、公益社団法人 大阪府防犯協会連合会へ寄付し、本年の6月に大阪府下全ての公立小学校に配布されました。

「5つのやくそく」は、子どもたちが日頃から適切な防犯行動ができるように使われている標語です。当社は2008年にも大阪市と堺市の小学校約400校に寄付いたしました。今回は、より多くの子どもたちの防犯意識の向上に資することを目的とし、大阪府の小学校約1,000校へ寄付いたしました。

製作にあたっては、大阪芸術大学グループの学生を対象に原画をコンペティション形式で募集。多数の応募の中からデザイン学科 川崎奈津美さんの原画を最優秀作品に選び、作成いたしました。また原画には、当社グループ会社である

ニッペホームプロダクツ株式会社のDIY向け塗料が使われております。

本取組みに対しては、本年5月20日に大阪府警察本部から寄付に対する感謝状を頂いております。

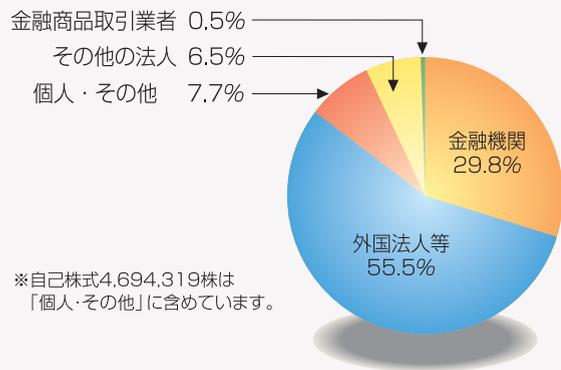


株式状況

(平成27年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,000,000,000株
 発行済株式の総数 325,402,443株
 株主数 8,816名

所有者別分布状況 (株式数比率)



大株主 ※1

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
NIPSEA INTERNATIONAL LIMITED ※3	126,906	39.57
N A T I X I S	13,378	4.17
日本生命保険相互会社	10,817	3.37
住友生命保険相互会社	10,750	3.35
株式会社三井住友銀行	9,999	3.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,355	2.29
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,133	2.22
三井住友信託銀行株式会社	7,053	2.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社トヨタ自動車口	5,109	1.59
明治安田生命保険相互会社	4,426	1.38

※1.当社は、自己株式4,694,319株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を除いて算出しております。
 ※2.持株数は千株未満、持株比率は小数点第2位未満を切り捨てております。
 ※3.NIPSEA INTERNATIONAL LIMITEDは、ゴー・ハップジン氏が代表を務めるWUTHELAM HOLDINGS LTD.の100%子会社です。

日本ペイントホールディングス株式会社

(平成27年3月31日現在)

本社 〒531-8511 大阪市北区大淀北 2-1-2
 TEL 06-6458-1111
 創業 明治14年(1881年)3月14日
 資本金 788億6千2百万円
 主要な事業内容 グループ戦略立案および各事業会社の運営

役員 (平成27年6月26日現在)

取締役会長	酒井 健二
代表取締役社長	田 堂 哲志
代表取締役専務執行役員	西 島 寛 治
取締役上席執行役員	南 学
取締役	ゴー・ハップジン
社外取締役	小 原 正 敏
常勤監査役	金 倉 顕 博
常勤監査役	桑 島 輝 昭
社外監査役	清 水 正 裕
社外監査役	高 橋 司
社外監査役	松 本 岳

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	6月中
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町 三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
公告方法	電子公告により行う。 http://www.nipponpaint-holdings.com/koukoku/ ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
(ご注意)	<ol style="list-style-type: none"> 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。 未受領の配当金につきましては、当社定款規定に従い三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

当社ホームページのご案内

投資家情報ページのご案内

詳細な財務情報や企業情報に関しては、投資家情報ページをご参照ください。



<http://www.nipponpaint-holdings.com/>

日本ペイントホールディングス 検索

ROOM BLOOM

当社が新しい視点で立ち上げた住宅内装用ペイントブランド「ROOMBLOOM」。「塗料」という単なる工業製品ではなく、ペイントをとおしてお客さまとともに暮らしを丁寧に見つめ、ともに創りあげていきたいというコンセプトから生まれました。そして「ROOMBLOOM」は、ペイントとともに「Happy, Fun, Joy」という気持ちをみなさまの暮らしに届けるさまざまなプロジェクトをスタートしています。

活動の様子や、イベント開催は、ホームページ・フェイスブックにてご案内いたします。
ホームページ <http://room-bloom.com/> フェイスブック <https://www.facebook.com/ROOMBLOOM.jp>

ペイント仕上げの空間で
心地よい光につままれる



日当たりのよさを活かし、すべてのお部屋をペイントでリノベーションした空間をご紹介します。
一歩足を踏み入ると感じる光のやさらかさ。それは、ペイントという手仕事が生み出す微かな凹凸が、一日を通して移ろいゆく光の変化をやさしく受け止め、やわらかい空気感をつくり出しているのです。



一見すると敬遠されがちなグレー系や黄緑色も、一面だけにとりいれるとスタイリッシュに。
子ども部屋は遊び心のある色を選びました。